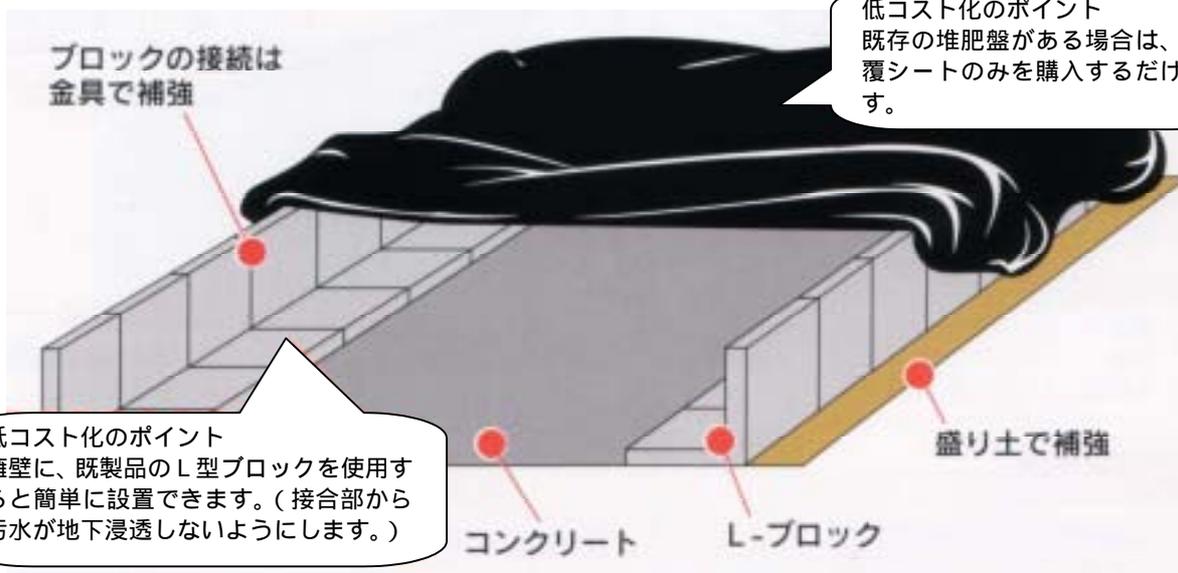


バンカーサイロ型堆肥化施設

構造

- ・ 堆肥盤(既存のものでも新規に整備したもので可)に被覆シートを掛けた施設です。
- ・ 被覆シートには多くの種類があり、堆肥化をねらった堆肥専用のシートからビニールシートまで様々です。
- ・ ショベルローダー等の切り返し用の機械が必要になります。



低コスト化のポイント
擁壁に、既製品のL型ブロックを使用すると簡単に設置できます。(接合部から汚水が地下浸透しないようにします。)

低コスト化のポイント
既存の堆肥盤がある場合は、被覆シートのみを購入するだけです。

メリット

- ・ 建設費が安価です。
- ・ 床面がコンクリートなので被覆シートを取り除けば切り返し作業が可能です。

デメリット

- ・ 切り返しの都度、シートの被覆が必要なため作業性が劣ります。
- ・ 切り返しをしないと堆肥化はあまり期待できません。
- ・ 擁壁が低く堆肥が高く堆積できないため、大きい施設が必要になります。

留意点

- ・ 切り返しや搬出の際に悪臭が発生するので作業の時間帯に気を配る必要があります。
- ・ 切り返し終了後は、速やかに被覆シートで覆う必要があります。
- ・ 雨水が流入しないよう注意が必要です。
- ・ 水分調整の程度により異なりますが、はい汁を集める工夫や貯留槽が必要な場合があります。
- ・ 既存の堆肥盤で擁壁が三方にない場合は、下表より大きな施設が必要になります。

設置コスト

建設費	約12,500円/m ² (耐用年数は、堆肥盤20年、 被覆シート2年程度)
処理ふん尿 1 m ³ 当たり建設費	9,370円/m ³
減価償却額	680円/m ² ・年
堆肥盤	620円/m ² ・年
ビニール	60円/m ² ・年

一般的な堆肥舎の県内建設事例から、堆肥盤に係る建設費を掲載してあります。なお、使用部材等により建設費は変わります。

堆肥盤必要面積

畜種	飼養頭数	必要面積 (m ²)
乳用牛	搾乳牛 20 頭、育成牛 4 頭	247
	搾乳牛 30 頭、育成牛 6 頭	374
肉用牛	肥育牛 40 頭、 肥育牛 80 頭、	139
		277
豚	肥育豚 1,000 頭	404
	肥育豚 1,500 頭	601

必要面積は、堆積高 1.5m とし堆肥化に要する日数(134日)で試算しました。なお、家畜飼養方法、ふん尿処理方法により面積は変わります。また、134日を越えて保管する場合は、別途保管施設が必要になります。